



胸上小だより

中学校区一貫教育校園

第 13 号

思いやりのある子・考える子・たくましい子

「わかる」「できる」「楽しい」

令和3年2月22日

**相手を思いやる気持ちが
コミュニケーションの第一歩！**

「主体的・対話的に学習する子どもの育成」を研修テーマに校内でも授業実践を行ってきていますが、まだまだ「伝える力の育成」に課題が見えます。

また、胸上小学校の子どもたちの生活の中で「テレビ・ゲーム・インターネットをする時間が長い」という課題もあります。「伝える力（コミュニケーション能力）」と「メディア依存」は、なんらかの関係がありそうです。そこで、「メディアコントロール週間」（2/22～26）を計画し、家庭でもメディアとのつきあい方について考えてほしいと考えています。以前掲載した記事の抜粋をもう一度ご紹介します。



スマホ・ネットゲーム依存・・・

こども心身医療研究所・診療所所長で大阪総合保育大学名誉教授の富田和己先生の話です。

『スマホの怖さとして、・・・学校で禁止されている中高生はもちろん、日本人の多くは、ほんの少しでも時間があれば、歩きながら、駅で、車中と所かまわず忙しげに指先を動かし、家に帰れば深夜まで不要な情報を集め、通信をし、ゲームを会ったこともない知らない相手としてしています。今や小学生までスマホをもち、母親は乳児をあやすのにスマホのアプリを使う時代になりました。』

・・・私は毎日、スマホ中毒の子どもの治療を、親と共に模索していますが、絶望的な例が多く、まるで次元の異なる世界に住む者をみているような錯覚に陥ります。

最近はパソコンやタブレットを使い、安易に調べ学習をしてしまい、コピー（copy and paste の略）でレポートが完成するという時代になってきました。子どもたちの発達段階を考えれば、必要があれば調べ方を聞き、自分の足で資料を探したり、図書館の先生などに必要な本を紹介してもらったり、地域に飛び出して取材をしたりする学びを大切に考え、人との関わり方を最優先するべきです。電子機器の進歩による「利便性に伴う弊害」は、特に子どもに強く出て、彼らが成人になった時は考えるだけで怖くなります。』という富田先生の話に私も同感です。

今後とも、子どもたちの健やかな成長を願い、今の情報化の時代の中で、それぞれが何ができるかしっかりご家庭や地域と連携して取り組んでいきたいと思います。

学校教育目標「心豊かで、自ら考えて行動する児童の育成」(生きる力)

わかる・できる・楽しい学校づくりをめざして、「学習」「思いやり」「元気」の土台を築こう！

学習

思いやり

元気

寒さに負けずがんばっています 1月20、27日



冷たい北風の吹く昼休みになりましたがなわとび大会がありました。今年は、密を避けるために個人技で学年に応じた目標タイムを設定して競いました。子どもたちは、休み時間を使って練習に励み、記録に挑戦していました。

海苔すき体験 1月26日



「地域のことをもっと知ろう」と3年生の子どもたちが、胸上漁協に訪れ、海苔すきを体験しました。初めて作り方を知ったり、工場内を見学したりして貴重な学習となりました。

オープンスクール 2月17日

6年生が、東児中学校に行き、中学校生活の心得、授業参観、部活動体験等を行いました。



今年度最後の参観日 2月18日

コロナ感染の心配からいろいろな教育活動に制限があった中、なんとか子どもたちに「学びと体験」を大切にした教育活動を続けてきました。どの学年も、今年1年間で学んだこと、体験したこと、そして成長した姿を家族の人たちに届けようとがんばっていました。



お知らせ

玉野市の企業から、マスクの寄贈がありました。子どもたちが持って帰ると思います。ご活用ください。

